

に、おしなべて某屋とはかくゆるゑに、今はかへりて卑き號となりて、先祖より傳はりたるをい
とひて、屋字を谷にかへなごすめり、さてかのもろこしの某堂某齋のたぐひは、物まり人風雅人
なども、商人もかはることなくて、同じさまにつく事なるを、御國にても、まねびてつく人多き、そ
れをばあき人の家の號に同じとて、いとふことなきは、からめきたるにまぎるればなるべし、ま
かるに近きころ、古のまなびするともがらは、その某堂某齋のたぐひは、からめきたるをうるさ
がりて、皇國ことばもて、つけむとするに、かの松屋藤屋のたぐひは、さすがにさけむとする故に、
つくべき號なくて思ひわぶめり、或は某の屋とのもじを添て分むとすれども、木草などのうち
に、みやびたる名は數おほからねば、こゝにもかしこにも、同じことのみいでくめり、そもくも
ろこしのは、多く二字をつらねてもつくる故に、いかさまにも心にまかせて、めづらしくつくべ
きを、皇國言は、二つかさねては、長くなりてよびぐるしければ、かにかくにつけにくきわざなり
かし、

〔本朝高僧傳四十一〕京兆南禪寺沙門英文傳

釋英文號景南、生子常州○中、稍長上洛、拜東福大方用和尚爲師、前夜方夢文關西至、因名英文、後自
號景南、

〔本朝高僧傳四十三〕京兆南禪寺沙門桂悟傳

釋桂悟號了庵、嗣法眞如大疑信公○中、朝廷聆其名、召問法要、皇情大喜、特齎宸翰、大書了庵二字賜
之、

〔本朝畫史中世名品〕僧雪舟、諱等楊、又稱備溪齋、或稱米元山、主氏小田、備之中州赤濱人也、

〔明良洪範二十三〕或時六左衛門ニ、弓ノ事仰セ仕ラレシ、冬ノ事ナリシニ、早速削リテ、雪中ニ自身
肩ニ打カ、ゲ馬ニ乘、蓑笠著テ、登城シケル、秀次公、矢倉ヨリ御覽有テ、賤シカラヌ武士、馬上ニ何